

学生担当者報 4

発行/天理教学生担当委員会 発行責任者/茶谷 良佐 編集責任者/辻 雄二郎

Vol. 410
立教 184 年
2021 年
3 月 25 日発行

TEL 0743-63-1511(内線 5817) 直通:0743-62-2489 FAX 0743-62-2489
E-mail tsa@tenrikyo.or.jp TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp

お知らせ

四月例会
開催の有無が決まり次第、TSA website でお知らせします。

学生層育成者講習会

日程・会場案内
【直属】
・櫻井 4月24日12時00分〜 大教会
・中背 4月24日11時30分〜 大教会

報告

二月例会
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「二月例会」は中止といたしました。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】
・大分 2月3日 教務支庁 50名
中山祥吉委員出向
【直属学生層育成者講習会】
・松阪 2月20日 大教会 80名
柏原委員出向
・越乃國 2月23日 大教会 100名
松山委員出向

人事

《立教 184 年 2 月 25 日付》
【直属学生担当委員長辞令交付】
・菊池正志 (高岡・大洲)

業務記録

《立教 184 年 2 月 16 日〜3 月 15 日》
2月18日 事務局連絡会
担当者報チーム会議
24日 要員育成室卒業式
担当者活動部部会
25日 委員会
担当者活動部部会
編集部部会

25日 まなび部員・本部スタッフ
事前研修会

27日 Joyous Style 事前研修会 (〜28日)
3月1日 Joyous Style 第1回 (〜3日)
3月5日 Joyous Style 第2回 (〜7日)
9日 Joyous Style 第3回 (〜11日)
13日 学生部部会
春の学生おちばがえり
プロジェクトチーム会議

「青年の夢」と「おじさんの務め」



学生層育成
について考
える時、「我々の
やり方や考え

方は、果たして若者に受け入れられるのだろうか? という懸念が、常に頭の片隅にあります。それもそのはず自身、学生層とは二十歳以上の年齢差があり、教区・直属でおつとめの先生方の中にはそれ以上の方もいらっしゃることでしよう。

世代が違えば、青年期や幼少期を過ごした時の社会状況も違い、またお道の状況も異なります。すなわち価値観や常識は、世代間によって異なっているのが当然であり、ある意味では正常とも言えるのではないのでしょうか。

本年、天理教青年会では「世界たすけへの挑戦」と基本方針を掲げ、「徳分を活かしたおたすけ」や「夢に向かう」ということを強調しています。基本方針発表の動画配信を視聴しましたが、

切り替えの早い動画の中で、勢いのある音楽とともに、「今まで通りじゃダメなんだ」という意味合いの言葉が、次々と流されます。ご覧になった四十代以上の方からは、彼らの勢いに安心感や喜びを覚える方もおられれば、時代が移り変わっていくような感覚を覚えた方もおられるのではないのでしょうか。私はここで改めて「世代間における差」を意識する必要があると感じます。これからを担う「あらしきとよりよう」の置かれている環境は、二十年前・四十年前とは全く異なるのですから、やり方や意識の高め方も違って当然なのではないのでしょうか。それとともに大事なこと、世代は異なれども我々の目指すところは同じ「陽気ぐらし」だという一点です。

事務局長

松山 勇一

はないわけですから、その丹精にはさまざまな年代が協力し、一手一つにあたるのが求められるでしょう。

青年層から年の離れた我々は、①彼らの目指すものに理解を示し、良き協力者となる。②元「あらしきとよりよう」として、若い者には負けない気概を持つて、我々は我々の年齢だからできる、「世界たすけ」に勤しむ。これこそ、「おじさんの務め」であり、我々学生層育成者としての姿勢ではないでしょうか。いくつになっても、気持ちは「あらしきとよりよう」で、一手一つに行きましょう!
(もつぱら、四十代以上の男性に向けた文章となつてしまいましたことを、女性の学生担当者の皆さまにお詫びいたします。)

令和3年 学生担当委員会 活動方針 『共に教祖のようぼくに育つ』

立教百八十四年

大学卒業生の集い Joyous Style 開催報告

「陽気ぐらしへ向かって私とおたすけ」

去る三月一日、例年の学生生徒修養会大学の部の中止に伴い、代わって「大学卒業生の集い Joyous Style」を、本部第三十八母屋を会場に二泊三日で三回にわたり開催した。各回の定員は四十名とし、宿泊は一人一部屋、マスク必着、一日二回の検温実施、換気の徹底、消毒作業の徹底、ソーシャルディスタンスの確保等々、あらゆる感染対策を講じた上での実施となった。参加者は第一回（三月一日～三日）三十三名。第二回（三月五日～七日）十九名。第三回（三月九日～十一日）二十二名の合計七十四名であった。

学生担当者報

「陽気ぐらしへ向かって私とおたすけ」をテーマに掲げ、さまざまなエクササイズを通して相互の交流を深めながら、それぞれがゆっくりと自らを見つめ直し、心を整理するとともに、三度の講話（「信仰の喜び」「おやさま」「おたすけの実践」と「ふりかえり」といったグル

ープタイムを通して、これからの日々の生活の中で陽気ぐらしの実践や、自分にできるおたすけの実践について考えてもらおう機会となった。カウンセラーの報告によると、コロナ禍の影響は予想以上に大きく、多感な時期にある学生たちは、実は内面的にさまざまな悩みや苦しみや葛藤を抱えていたことが分かった。しかし今回行事に参加したことで「心に元気と励みを頂いた」「悩みが晴れた」「改めてお道の素晴らしさ、大切さを感じた」「参加してよかった」と心から喜ぶ姿に、どげの理の尊さを再確認させていただくとともに、スタッフ一同の感激もひとしおであった。最後に、只今の状況下にあつて無事開催できたことは、親神様、教祖のお守りは申すまでもなく、今回携わった係員（学担委員、部員および本部スタッフ）の育成に対する熱意と献身的な務めの賜物です。また今回学生を送り込んでくださった教区・直属学生担当の先生方や保護者の皆様にも、ご理解とご協力を頂いたことに深くお礼申し上げる次第でございます。誠に有難うございました。

学修部 部長 柏原信弘

学生担当者報

令和3年 育成ミニ勉強会のご案内

常日頃は、学生層育成の上にお力添えを賜り、誠にありがとうございます。今年の基本方針として『共に教祖のようぼくに育つ』を掲げ、日常の丹精に力を入れていくことになりました。そこで、育成者である私たち自身が今一度、広く「育成」ということを念頭において、教祖の親心をたずねる機会を設け、教区・直属の先生方と一緒に勉強する機会にしたいと存じます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の先行きは未だ不透明であり、一堂に会しての開催は難しい現状にあります。就きましては、感染症対策をしたうえで、小規模・短時間の「育成ミニ勉強会」を下記の通り開催したいと存じます。先生方には是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。ただし、今後の状況によっては、内容を変更したり、中止せざるを得ない場合もありますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

記

日時： 6・8・9・10・11月の25日 14時～15時15分頃（受付：13時30分～） ※その後16時より学生担当委員会例会を行います。（予定）
会場： 教庁4階講堂
対象： 教区・直属学生担当委員長、委員長の推薦する者1名 ※傍聴席を設けますので、ミニ講話はどの月も傍聴可能です。
定員： 各回40名
全体テーマ： 「教祖ならば、、、～教祖の親心をたずねて～」
内容： ミニ講話、ワークショップ
お申し込み： 参加申込書に必要事項をご記入の上、学生担当委員会事務局へご提出ください。 ※FAX可（0743-62-5780）
締切： 4月25日（日）
なお、5月例会資料にてご参加いただく日程をお知らせいたしますので、必ずご確認ください。

青空

苦痛×意味＝希望「苦しいこと、つらいこと」意味をかけてあげれば、希望や喜びに変わるんだよ」これは十三年前、「春の学生おぢばがえり」の直属アワーで当時の大教会長様から教えていただいた言葉です。

その春学から十年後、修養科中に「流産」という節を頂きました。しばらくは非常に悲しく、つらい日々を過ごしていました。しかし、ある時ふと、冒頭の言葉を思い出したんです。

この節の意味とは何だろうか？ 込められた親心とは何だろうか？ そう思いながら、妻と思索を重ね、いろんな先生にお話を聞く中で、最終的に「本当にありがたい節を頂いた」と思うことができるようになりました。

「おぢばの行事に参加すれば、目には見えないけど、たすかる種を蒔いてくださっているんだよ、絶対に！」学修などに参加する時、学生たちに私が胸を張って伝えられることの一つです。

人材育成部本部スタッフ 石倉 祐

Happist 4月更新予告

URL:https://happist.net

※内容は一部変更になる場合があります。

【教区・直属学生会紹介】 鍛冶物学生会

新連載

- ・おさしづ -ボクらを支える言葉- 深谷 耕治 (天理大学宗教学科助教)
・ちょっとだけいい話 須藤 江平 (かがみ寮 幹事)
久保 修策 (学生担当委員会 部員)

学生に手渡しできるリーフレット HAPPIST [NOT] NET No.6
例会資料としてお配りしています。追加のご希望は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

